

『改訂版 必携 英単語 LEAP Basic』の刊行によせて

竹岡 広信

1. 謝辞

昨年 2024 年に、『必携 英単語 LEAP』の改訂版(以下、『LEAP 改』)を発行いたしました。おかげさまで、初版を大きく上回る数の学校にご採用いただき、非常に多くの学習者や指導者の皆様にお使いいただけるようになりました。これもひとえに、日々、教育の現場でご尽力されている先生方、そして英語力向上に向けて努力を重ねている全国の生徒の皆様のご支援とご愛顧の賜物です。心より感謝申し上げます。

2020 年に発行されました『必携 英単語 LEAP Basic』は、英語の初学者を本気で支えたいという思いから、「英語が苦手」「中学レベルの英語が固まっていない」と感じている学習者を主な対象として、情報を徹底的に絞り込んだ新しい『LEAP』として誕生しました。発行以来、多くの先生方、生徒の皆様から、「中学レベルの英単語も多く掲載されていて、基礎から学習できる」「必要な情報だけに絞られていて、取り組みやすい」「用例が覚えやすく、英作文にも役立つ」といった温かいご評価をいただき、大変ありがたく受け止めております。

そして、このたび、同書を 5 年ぶりに改訂することとなりました。今回の改訂では、私自身と編集担当者の熱意に加え、先生方から頂戴した貴重なご意見・ご要望をもとに、内容をさらに充実させました。

主な改訂ポイントは 2 つございます。第一に、語彙数の増強として、見出語を新たに 200 語、巻末付録に 200 語を追加いたしました。第二に、紙面に掲載した QR コードを通じて、3 種類のデジタルコンテンツをご活用いただけるようにいたしました。これらの改訂方針は、昨年、発行した『LEAP 改』の流れを受け継ぐものです。

そして、こうした改訂を通じて、『改訂版 必携 英単語 LEAP Basic』(以下、『LEAP Basic 改』)はより一層、完成度が高く、魅力ある英単語集とし

て生まれ変わったと自負しております。

2. 改訂のポイント

今回の改訂では、初版から踏襲している基本コンセプト(→「3. 『LEAP Basic』の基本コンセプト」)に加えて、主に、次のような変更を行いました。

(1) 見出語の増加(1,400 語 → 1,600 語)

改訂版では、Part 5「Passive Vocabulary ②」を新設して、見出語を 1,400 語から 1,600 語に、200 語増やしました。これは、近年の大学入試(特に大学入学共通テスト)で求められる語彙力が全体的に上がっていることを踏まえた対応です。

また、見出語の増加に加え、巻末付録として新たに「+a で覚えておくと役立つ英単語」(200 語)を収録しました。この付録までしっかり学習すれば、基礎力を確実に固め、「大学入学共通テスト」にも十分に対応できる構成となっています。

「『LEAP』は難しすぎるが、『LEAP Basic』では物足りない」と感じていた生徒の皆様にとっては、「共通テスト対策まで安心して使える 1 冊」としてご活用いただける英単語集となりました。

(2) 充実した QR コードコンテンツ(3 種類)

『LEAP Basic 改』では、昨年発行の『LEAP 改』と同様に、各 Part の冒頭(トピラページ)やコラムのページなどに QR コードを掲載して、下記 3 種類のコンテンツを配信いたします(*コンテンツは 2025 年 12 月から順次リリース予定)。

① 音声データ：本冊掲載の見出語・用例の音声データ(初版と同様の計 4 種類)

- (a) 単語(英→日)：単語の意味の確認用
- (b) 用例(英→日)：英文解釈用
〈英語を「聞く」トレーニング〉
- (c) 用例(日→英)：口頭英作文用

〈英語で「話す」トレーニング〉

(d) 用例(英のみ)：ディクテーション／シャドウ
イング用

ご利用方法を、初版「HP からの DL 配信」→改訂版「QR コード配信」に変更いたしました。PC でデータを DL する手間がなくなり、スマートフォンやタブレットなどを用いて、手軽に、発音の確認と音声トレーニングができるようになりました。

②解説動画：筆者の私自身が、下記4種類の内容を講義形式で解説いたします(約5～10分×計15本)

- (a) 本書の使い方
- (b) 品詞の理解
- (c) 語源(代表的な接頭辞・接尾辞・語根)
- (d) 英語の発音・アクセント

(a)(b)は、英語の初学者や英語が苦手な生徒のために、本書を最大限かつ効率的に活用していただくことを目的とした内容です。

(c)(d)は、『LEAP 改』の解説動画でも扱っている内容ですが、『LEAP Basic 改』のレベルに合わせて、新たに収録し直します。特に(d)では、『LEAP 改』と同様に、私が親しくしているネイティブスピーカーの先生にもご出演いただき、英語の発音やアクセントについて、母語話者ならではのコメントやアドバイスを随所でご紹介いただく予定です。

これらの内容は、日ごろ、私が予備校などで教えている中で特に効果的だと感じているもので、英語の語彙力と発信力を高めるうえで非常に役立つものばかりです。是非、繰り返し視聴して、しっかりと身につけていただければと思います。

③ドリル問題：本冊掲載の全見出語に関するドリル問題(計4種類)

- (a) 単語(英→日)
 - [例] predict
 - (1) ～を理解する (2) ～を確かめる
 - (3) ～を予測する (4) ～を不安に思う
- (b) 単語(日→英)
 - [例] 人工的な
 - (1) electric (2) material
 - (3) artificial (4) humid
- (c) 用例(英→日)

[例] He is flexible in his thinking.

彼は思考が()だ。

- (1) 単純 (2) 複雑
- (3) 柔軟 (4) 独特

(d) 用例(日→英)

[例] タイムカプセルを埋める

() a time capsule

- (1) place (2) bury
- (3) press (4) nod

初版では、数研出版のアプリ「数研 Library」で一問一答のドリル問題をご用意していましたが、改訂版では、QR コードから手軽にアクセスして、本冊の復習をしていただけます。

以上のように、『LEAP Basic 改』では、ご好評をいただいている『LEAP 改』と同様に、学習者の語彙力増強により資するよう、さまざまな要素を追加いたしました。新要素について、是非、積極的にご活用いただければ幸いです。

次に、初版をご採用いただいた先生方は既にご存じかとは思いますが、初版から踏襲する『LEAP Basic』の基本コンセプトについて、再確認したいと思います。(以下の「3. 『LEAP Basic』の基本コンセプト」は、『CHART NETWORK 92 号』(2020)に掲載した記事の一部を加筆・修正したものです。また、初版と改訂版で共通する内容のため、便宜上、書名は『LEAP Basic』といたします。)

3. 『LEAP Basic』の基本コンセプト

(1) Active Vocabulary と Passive Vocabulary

『LEAP Basic』では『LEAP』と同様に、収録語彙を Active と Passive で線引きしております。Active Vocabulary は「書く・話す」といったアウトプットで必要な語を「使えるようにする」ことを重視して、手厚く解説しました。一方、Passive Vocabulary は「読む・聞く」といったインプットで必要な語について、「語義のイメージや意味を理解するための手がかり」をできる限り提示し、単なる「丸暗記」にならないように工夫しました。

改訂版では、Part 1 (400 語)、Part 2 (300 語)、Part 3 (300 語)の計 1000 語を Active に分類し、Part 4 (300 語)と新たに追加した Part 5 (300 語)の計 600 語を Passive に分類しました。ただし、

『LEAP Basic』のレベルに合わせて、『LEAP』では Active に分類されていた単語の一部を Passive に変更しました。たとえば、insist 「言い張る」、object 「(感情的に)反対する」です。こうした単語は入試の語法問題で頻出であったため、教師の心には「重要語」と印象づけられる傾向がありますが、ふつう、英作文で使用される語ではありません。

Active に分類した語には【頻出】【注意】という項目をつけました。【頻出】には「発信を前提として必要だと思われる熟語、定型表現」を厳選し掲載しました。たとえば、skill の【頻出】では、improve[develop] *one's* ~ skills 「～の技術を伸ばす」を掲載しました。この表現は英作文などで有用ですが、skills と複数形で使える生徒は少なく、典型的な「書けそうで書けない」表現のひとつです。【注意】には、「その語を使った発信で、生徒がよく間違えるポイント」を掲載しました。たとえば、defeat の【注意】では「『～に勝つ』は〈win+(試合、戦争)〉または〈defeat+(人、チーム)〉」としました。

(2) CEFR レベルの表記

『LEAP Basic』では、すべての見出語に CEFR レベルを掲載しております(ただし、熟語については CEFR レベルではなく、独自の頻度表示を採用しています)。たとえば、英作文を指導する際に「research は動詞より名詞で使ったほうが良い」といった感覚的なアドバイスよりも、「research は名詞だと CEFR レベル A2 だけれど、動詞では B2 なので、動詞で使うのは少し難しいよ」と具体的な基準に基づいた説明のほうが、説得力があります。こうした観点からも、見出語に CEFR レベルを明示する意義は非常に大きいと考えています。

実際、私が調べたところ、これまでの共通一次試験・センター試験・大学入学共通テストで、出題されたのはわずか1回のみという単語は非常に多くあります。たとえば、violate (B2), troublesome (B2), trivial (B2), transition (B2), thoroughly (B2), stiff (B2), dread (B2), dismiss (B2)などがそれに該当します。これらは CEFR で見ると B2 以上の難語に分類されるものばかりです。もちろん、教師の立場から見れば「この程度は知っておいてほしい」と思う単語も含まれていますが、過去 50 年

にわたり、上記の試験で1度しか出題されていないような単語を、初学者に暗記させるのは、負担が大きい割に得られる効果が限られているのは明らかです。そのため、本書ではそのような低頻度かつ難易度の高い単語は、可能な限り掲載を見送る方針をとりました。

(3) 中学レベルの基本単語・熟語(400 語句)を徹底的に解説

『LEAP Basic』では、Part 1 において、中学レベルの基本単語・熟語 400 語句を徹底的に解説しています。これは、「生徒が英作文やスピーキングの場面で、中学レベルの単語すら十分に使いこなせていない」という先生方の声を反映したものです。

この 400 語句は、中学校で使われている主要な教科書で扱っている語彙の調査と、拙著『必携 英作文 Write to the Point』(数研出版)の解答で使われている語の分析、そして、私自身の 40 年以上にわたる英作文添削の経験をもとに、英作文やスピーキングで本当に役立つ重要語句を厳選しました。「これらが使えれば、基本的な英作文やスピーキングは十分にこなせる」と言える、まさに厳選の 400 語句です。この Part 1 だけでも、『必携 英作文ハンドブック』という 1 冊の書籍にして出版できるほどの完成度になっています。

Part 1 の見出番号 1 は“a”で、語の意味は「①ある(1つの)②～につき」とし、【ニュアンス】は「①『(特定できない)ある～』(*訳さないことも多い)②=per 『～につき』」としました。そして、【注意】で「『犬が好きだ。』のように『犬という動物全般』を示す場合、冠詞をつけず、複数形を用いて I like dogs. とする。」と解説しました。見出番号 2 の“the”は、「①(暗黙の了解を示す) ②(+単数形)(総称・対比を示す)」と 2 つの語の意味を掲載し、それぞれの用例を Let's meet at the station 「(君の知っているその)駅で会おう」、play the piano 「ピアノ(という楽器)を弾く」としました。そして、②の【注意】として「主に楽器や(科学技術の)発明品や体の部分に使われる」として、「楽器名だから the がつく」のではないということを示しました。a と the は一見すると非常に基本的な単語ですが、高校生でもその使い分けが十分にできていないケースが多く見られます。そのため、あえて

見出番号1と2に掲載しました。

think を他動詞とと思っている生徒は多く、think him のようなミスが相当出てきます。そこで“think (that) S V”と“think about ~”でそれぞれ見出語にしました。このように重要度が高いものについては同一の単語でも複数の見出語に分けて掲載しています。本当に覚えて欲しい内容を「埋もれさせたくはない」という願いからです。

英作文をするためには基本熟語は欠かせません。“go to ~”や“both A and B”などのレベルから“believe in ~”や“take the train”などのレベルまでを精選して掲載し、【ニュアンス】や【注意】も充実させました。たとえば、“get on ~”「~に乗る」は「(立ったままでも乗れそうな大きい乗り物)に乗り込む」、一方、“get into ~”「~に乗る」は「(身体を曲げて、比較的小さな乗り物)に乗り込む」というニュアンスを記載しました。

(4) ニュアンスの解説

これまで随所で述べてきましたとおり、本書では【ニュアンス】の解説にも徹底的にこだわりました。

ある英作文で「その食べ物の味を説明する (describe the taste of the food)」という課題に対し、多くの生徒が explain を使っていました。「説明する」に対応する英語には tell / show / describe / explain などがありますが、一般的な英単語集には explain と describe のみが掲載され、特に、describe は「描写する」と訳されていることが多いため、生徒の中では「説明する = explain」と誤って覚えているケースが見られます。

こうした誤解を防ぐためにも、類義語をグループ化し、それぞれの違いを明確にしたうえで【ニュアンス】を丁寧に解説しております。

(5) 発音へのこだわり

以前、『LEAP』を使用している生徒を見て、がく然としました。その子は随分と英語が苦手らしく発音記号の下にカタカナで読み方を書いていたので。私は「音声があるから、発音記号も何となくわかるようになるだろう」と、正直、たかをくくっていました。しかし、英語の苦手な子にとっては「発音記号」=「絶対読めない」というイメージがあるようです。よって、『LEAP Basic』では、発音記号の下にカタカナ表記を併記しております。

「カタカナ表記」に抵抗感を持つ先生は多いと思います。しかし、「make」を「マケ」と読んでしまう生徒のことを思うと、このようなカタカナでの発音表記も必要だと感じます。そして、初版の発行以来、この「カタカナ表記」に対して多くの支持の声をいただき、大変うれしく思っています。

(6) 覚え方の充実

『LEAP』と同様に、丸暗記にならないように工夫を重ねました。語源を示す場合には、その連想の過程をできるだけかみ砕き、具体的に示し、さらに、同語源の単語を示すことで理解を深める工夫をしました。たとえば“humid”「湿気が多い」の覚え方には hum-[土] → 「(土の周りには)湿気がある」とし、同語源の語として、human「人間(土の上を歩くもの)」を紹介しました。

4. 最後に

『改訂版 必携 英単語 LEAP Basic』の執筆には、初版と同様に予想以上の時間がかかりましたが、その過程で、中学校で学ぶ単語・熟語の重要性を改めて実感しました。

書名“LEAP”には、“Learn English vocabulary, both Active and Passive (英語に関わる発信語彙も受信語彙も両方学ぶ)”という意味に加え、leap という英単語のとおり、生徒の皆様が英語を自在に使いこなす、大きく「飛躍」してほしいという願いも込められています。英語が苦手な生徒でも、本書で基礎を固め、英語を自分の力として使えるようになることを心から願っています。

今回の改訂では内容をさらに充実させました。本書を手に取り、学びを楽しんでいただければ、著者としてこれ以上の喜びはありません。

(駿台予備学校講師、学研プライムゼミ特任講師、
竹岡塾主宰)

※本稿に記載の内容は、執筆時点での情報に基づいております。今後、変更となる可能性があることをご了承ください。